

# なでしこ通信 第 39 号

《隔月発行》

## — 目 次 —

★保守の思想と女性学

大津寄 章三

★今治市男女共同参画計画について

☆書籍のご紹介：

家族の歌—河野裕子の死を見つめた 344 日

☆ご協力ありがとうございました

☆事務局から

## 保守の思想と女性学 ■ □

この度の東日本大震災に際して、亡くなられた方のご冥福をお祈りし、被災者にお見舞い申し上げます。1 日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

めざす会幹事 大津寄 章三

関西の大学院に通う女性が「めざす会」の会員の何人かにインタビューをしているので協力してほしい、という依頼があった。若い娘っ子の頼みとあらばオジサンとしては断れまい、と思ったわけでもないが、過日松山市内の喫茶店で向かい合うこととなった。

院で女性学を学んでいるというので、質問は「なぜ女性学に反対するのですか」というのかと思ったら、意外にも彼女が口にしたのは「草の根保守」についてであった。

「保守」という言葉自体たいへん定義が難しいのであるが、私はこう答えた。「こうすれば世の中は良くなる、という理論的な考えがあると、それを一気に実行に移そうとする人々がいわゆる革新派であり、それに対して今までの歴史や体験を重視し慎重にことを運ぼうとするのが保守派でしょう」と。

保守の思想とは、例えて言えば「老舗の秘伝のタレ」のようなものではないか。そういった店では代々の主人が伝えてきた大きな甕に入ったタレを少しずつ継ぎ足しながら頑固に伝統の味を守り続けている（さしずめその方式の代表格は伊勢の式年遷宮であろう）。

少なくともそこには時代とともに社会は進歩していく、などという楽天的な発想はあるはずもなく、逆に人の理性や流行、改革に対する不信、さらには「人はまちがいを犯すものだ」という冷然とした諦念さえもが透けて見えるようである。

総じて保守とは鈍重であり頑迷であり、要領が悪く時としては時代錯誤とも映る言動をとることがある。「めざす会」が女性学を信奉する方々から「バックラッシュ勢力」とくられるのもそのせいであるし、私も関わっている歴史教科書が「反動的」とレッテルを貼られているのもその例に漏れない。

しかし、私たちは歴史を学ぶ中から、人知が編み出した多くの急激な改革が決して人を幸福にしないという事例を多く見いだすことができる。端的な例は「社会主義」であり、近くはここ10年余教育界を混乱に導いた「ゆとり教育」が挙げられよう。前者に関しては、おそらくその考えを理論的にも倫理的にも破砕することは至難の業と思われる。しかし、「人は自分が働いた分だけの報いを求める動物であるし、異なる価値観と個性、才能を持つ人間を平等に置くことは不自然である」という経験知に照らせば、その崩壊は遠からず予測されていたともいえる。後者についても、まず「子供たちは学びたがっている」などという子供観の大前提自体が虚構にすぎず、さらに「授業日や授業数を減らせばゆとりが生まれる」といった算術的な目論見は、「水は低きに流れる」「小人閑居して不善を為す」という人間観察のイロハをもあまりに無視しすぎた皮算用と言ってい

私たちが男女共同参画社会という考え方に距離を置いている（というよりあからさまに批判しているのが実態であるが）のも、果たして長く社会に根を下ろしてきた男女の役割分担を「支配・被支配」というマルクスの試薬で読み解いていいものなのか、また、役割や立場に応じた「らしさ」という理想型にメスを入れることは角を矯めて牛を殺す愚を犯すことになりはしないか、さらに夫婦別姓をはじめとする「個」の自立と自己決定を声高に唱えることは家庭というかけがえのない有機体の崩壊につながりはしないか等々の危惧を抱いているからである。幾星霜を経、時代相は移ろい生活様式や科学技術は進化しても、人間の本性は驚くほど変わっていない。「人の基本形」を考慮しない施策や改革は多くの混乱と犠牲を強いる結果となる。

私は現状維持と伝統の墨守のみが正しいと主張しているわけではない。しかし、一度崩してしまえば二度と元に復元しないであろう価値に対しては、「虫の眼」とともに長い時代の積み重ねや人々の叡智に学ぶ「鳥の眼」も必要なのではないか――

若き研究者を前にして考えた春の一日であった。

## ■□今治市男女共同参画計画について

今治市は「今治市男女共同参画計画」案に対する市民のパブリックコメント（パブコメ）を平成 21 年末から 22 年始めにかけて募集しました。今治住民の 200 件近い反対意見は計画に反映されたでしょうか。パブコメに対する行政の意見を読んで少なからず驚きました。

市民のコメントを行政はどう聞いたでしょうか。幼児期の母親の存在は健全な子供の成長に不可欠です。長くなりますが、育児の社会化に反対するものを拾ってみました。

● 今治市民からのパブコメ： 「子供は誰に育てられたいか」という願いを無視している。子供は、母親に育てられたいと願っている。そうした願いを踏みにじっていいのか。

○パブコメに対する行政のコメント： 子育ては母親のかかわりが大切だと思います。

“【\*】様々な理由で就労やその他の活動に参加する場合があります。国の「男女共同参画社会基本計画（第2次）」及び愛媛県の「男女共同参画計画パートナーシップえひめ 21（中間改定）」等と整合を図り、支援をしていくものです。”

● 乳幼児期における母親のかかわりの重大さは、近年の脳科学の定説となっています。それは父親をはじめ、余人に代え難い女性の特権でもあり使命でもあります。乳幼児期を集団保育等で過ごした子供の深刻な弊害は各地各国でも報告されているとおりです。子供の発達段階に応じた父・母のかかわりは同一であってはなりません、その点行動計画ではどのように考えていますか。

○ 【\*】と同じ。

● 男女が共に働ける社会は素晴らしいが、女性には未来を担う子を産み育てるという大切な役割がある。孫が今、子を産んで、始めて思うことは、母親が安心して子を産み、育てられる社会にしてほしい。女性が働くという社会より、未来あるかけがえのない子を成長させ役目の方が、重視すべきであると思う。大切な子供たちが、住み、成長できる今治市になるようお願いしたい。

○ご意見の通り大切な子供たちが住み、成長できる今治市になるよう取組めます。

● 一人の女性にとって自分が社会に出て仕事をすることと、大切な命を産み育てるということは車の両輪のようにどちらも大切だ。母親が安心して子を産み、どの子にも母乳哺育ができるような社会を考えていたら、これほどの少子化にはならなかつたらう。今の施策は、女性が働くことばかりに重点が置かれ、女性にとってかけがえのない産み育てる使命が軽視されすぎている。これでは少子化はとまらないだらう。子育ては母親のかかわりが大切だと思います。

○ 【\*】と同じ。

● 母親が、主婦に専業できるような施策を希望する。子供が小さいうちは、いつも母親が側に

いて愛情を込めて世話をすべきだと思ふ。

今、話題の盲目のピアニスト、辻井伸行君は、あのお母様がいらっしゃらなければ、才能は埋もれたままになっていたろう。

母親は子供と肌と肌で触れ合うことで母親脳が上昇するという。生んだだけでは母親脳はできない。母親脳ができると、子供の微妙な変化にも敏感になるという。辻井いつ子さんは母親脳がフルに活動していたそう。手塚治虫の母親も、実に巧みに本の読み聞かせをされたという。お母さんの創意工夫が、手塚治虫の興味を引き、偉大な漫画家になった。

子供を出産しても保育所に預けて働く。それも最初から「すべてのことに最初の企画段階から参画」していたのでは、「母親」になれないだろう。

○ 子育ては母親のかかわりが大切だと思います。専業主婦という選択は尊重されるものです。以下【\*】に同じ。

● 子供が小さいうちは母親がいつも側にいて愛情を込めて、育てていくべきだと思ふ。それによって、思いやりの心がうまれていき、心豊かな人間になっていくと思ふ。

○ 子育ては母親のかかわりが大切だと思います。専業主婦という選択は尊重されるもの

その後、今治市は昨年3月に「今治市男女共同参画計画ーいきいきひとプランー」を制定しました。ジェンダーフリーという言葉こそ使われていませんが、性差を悉く否定した、現実離れも甚だしいジェンダーフリー、女権拡張の計画書であります。

「取組の基本的な方針」（31ページ）として、

今治市の目指す男女共同参画社会は、男女が自立した市民として相互に理解・尊重しあいながら、社会のあらゆる分野に共同して参画する社会です。男らしさや女らしさを尊重し、家族や伝統文化を大切にしながら、役割を分担する際には、性別ではなく個人の能力等によって決められる社会です。

と書かれています。具体的には、

【家庭づくり】は、男女がともに社会的・経済的に自立していることを求めています。専業主婦否定です。収入がない者は自立していないと見なされます。「夫婦」という言い方を避け、家庭でありながら「男女」としています。また、家事・子育て・介護は一人一人がその役割を果たさなくてはならないと言い、妻がそれらを担い、夫が稼ぎ手となることに断固反対なのです。

【地域づくり】においては、ことさら男女が「対等」と強調し、様々な活動に自ら選択して参加し、男女がともに立案・決定に参画すべしとなっています。誰もが主役をやりたがることを推奨するものです。「自ら選択して」とは、私達は今、強制されているので

すか。

【職場づくり】においては、事業主に結果の平等を提供することを求めています。機会の平等なら「女性の職業能力が発揮される」という言葉も生きてきますが、結果の平等では、本当に能力があり頑張る女性に対して失礼です。

【学校づくり】では、「性別により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されないことを学習」とありますが、わが国において、女性は、政治的、経済的、社会的に差別されているのでしょうか。また、誰によって差別されないのか不明であるのも不気味です。

こうした行政の施策こそ、主婦のアイデンティティを喪失させ、子供の人権を踏みにじり、日本の伝統的家族観を破壊するものでありますのに、「男らしさや女らしさを尊重し、家族や伝統文化を大切にしながら」と、とってつけたように書いてあるのは噴飯ものと言わざるを得ません。

## 書籍のご紹介

☆家族の歌 ～河野裕子の死を見つめた 344 日～

叱られて子供は育つ父は父の母には母の叱り方がある

息子にこのあいだ、電話をしてお願いをした。子供を叱らないでと。

お母さんは、口やかましく子供を叱るものなの。小さい子供は1秒か2秒目を離していても、事故にあったり、悪くすると死んでしまう。子育ての現場にいる母親は本能的に子供を守るために過敏になり、感情的に叱ってしまう。あなたは家事も育児もよくやっていると。だから子供をあんなに叱るのね。

でもね、父親と母親がそろって子供を叱るのはやめてほしい。子供たちは、外で精一杯やって、家に帰ってくる。疲れて傷ついて居る筈よ。子供たちは家だけが逃げ場。そこで叱られたら子供はどこに行けばいいの。 【産経新聞出版 1200円＋税】

## ご協力ありがとうございました

鈴木彩加さん（大阪大学大学院博士後期課程）より以下のメッセージがございました。

「2月3月とお話をお聞きした方はどなたも、長年家庭を支え、地域社会を支えてこられたのだということを実感しています。そして私自身もまた、誰かに支えられてきたからこそ今日があるのだということに改めて気付かされました。私の家族も様々な問題を抱えておりますが、どんな時でも父や母への感謝の思いは持ち続けていこうと思いました。

この度の取材を基にした論文の草稿は8月下旬頃にお送りする予定でいます（編注：今回の震災の影響で遅れる可能性もあるそうです）。青井様はじめご協力頂いた皆様にとっても何かフィードバックができるような研究にさせて頂きたいと思っております。ほんとうにありがとうございました。」

## ■ ■ ■ 事務局から ■ ■ ■

◆◆2月9～11日の椿祭りにおける「拉致被害者を救う会・愛媛」の署名・募金活動には**12名**の方々がご参加下さいました。**3日間**で**884,429円**の募金と**2,890筆**の署名が集まりました。

◆◆「女性学」は「教育」の名に値いする学問でしょうか。どんなことをしているのでしょうか。「女性学」の成果のひとつとしてDV（家庭内暴力）が犯罪として認められ、訴訟の対象にもなることが挙げられるそうです。実際、松山市の男女共同参画でも、相談件数や検挙件数を増やすことを施策の方向と位置づけています。

「女子供に手を上げるやつは男の風上にも置けない」という文化が廃れ、「男である前に人間でありたい」という思考が女性のDVを日常化させていきました。男女共同参画推進者はこう言います。「男だからと言って頑張らなくていい。もっと肩の力を抜けばいい。男性の自殺が多いのは男に男らしさを強要するからだ」と。それでDVの裁判を起こされてはたまりません。

◆◆これほど明快な「教育」の定義があるでしょうか。「はやぶさ」プロジェクトの川口潤一郎氏はその著書の中で、「そもそも、教育とは、国家がその国に貢献する人材を育てるための活動です。教育に限らず、国家が税金を投じて行うことはすべて国策です。そこには、国家が期待している目的があります。私たち研究者を育て、「はやぶさ」プロジェクトに多額の税金を投じた国の目的は何かと考えてみればわかります。当然、日本という国を興隆させるためです。国民が誇りを感じ、元気を出し、活発に活動するようになること。」と書かれています。

◆◆年会費（1000円以上）の切れる方に払込取扱票を同封しております。1000名を目指しております。現在760名でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

### 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井 美智子

〒790-0931 松山市西石井 1-3-30

ホームページ <http://www.mezasukai.com/> 電話 090-8971-7721 FAX 089-964-3903

メール [michikoaoi25@yahoo.co.jp](mailto:michikoaoi25@yahoo.co.jp) (件名を明記してください)